

7/10(月) 場所：アオッサ 607 (福井市)

学習院女子大学国際文化交流学部日本文化学科 教授 品川 明 氏

講座名：ヤマトシジミと里山・里湖のつながり

参加人数：37名

●最初に“シジミ検定”でクイズ行い、正解率に応じて参加者をシジミ1級～5級に認定し、会場は大いに盛り上がった。その後、シジミの価格、生態、食べ方、環境を保全する役割について説明した。特に、環境保全については、シジミ・漁業者・生活者それぞれの役割があると詳細に説明した。参加者からは「シジミを通して里山・里海湖が自然環境に及ぼす影響を知ることができた」、「福井の自然から食・生活・産業・文化へ連なる課題と研究を見つけていきたい」という意見が聞かれた。



8/25(金) 場所：アオッサ 607 (福井市)

国際環境NGOバードライフ・インターナショナル東京 代表 鈴江 恵子 氏

講座名：ドイツのグリーン・ツーリズム ～里山の利用につながる共通点～

参加人数：53名

●グリーン・ツーリズムの発祥地であるドイツのバイエルン州の農家民宿やバーデン・ヴュルテンベルク州の教育ファームなど、ドイツ各地の特色あるグリーン・ツーリズムを紹介し、里山地域の制約を逆手にとったドイツの手法を参考に日本の里山の可能性について説明した。参加者からは「里山里海湖の資源を活かして、日本人に合うグリーン・ツーリズムのあり方を確立する必要性を感じた」、「持続可能な取組みを考える上でとても参考になった」などの意見が聞かれた。



9/15(金) 場所：アオッサ 607 (福井市)

株式会社オークヴィレッジ 会長、正プラス株式会社 代表取締役 稲本 正 氏

講座名：海・里・山 地球史と人類史

参加人数：41名

●人間が生きるために森林が必要であること、地球と生命の歴史から分かる自然の大切さについて説明した。その上で、森と人の健康のために取り組んでいる都市発生木材を活用し木製品を製品化する事業や日本の樹木を原材料としたアロマオイルの事業を紹介した。参加者からは「木の利用方法はたくさんあり、まだまだ多くの可能性を秘めていると感じた」、「身近な話と地域的、宇宙的、大昔的等、いろいろな視点から興味深い話だった」などの意見が聞かれた。



10/16(月) 場所：アオッサ 607 (福井市)

株式会社 JTB 総合研究所 執行役員企画調査部長 波瀾 郁代 氏

講座名：最近の旅行者行動と“選ばれる”ための地域の魅力づくり

参加人数：42 名

●社会環境や技術の発達により、旅行・観光のあり方は変化しており、従来型観光地でなくてもオンリーワンの地域づくり、地域住民のライフスタイルが観光資源となりうると説明した。そして、掘り起こした観光資源を磨くために、全体を俯瞰しデザインできる人や組織が必要であると提案した。参加者からは「データや具体例を多く示してくれてとても分かり易かった」、「観光業が今後の日本のあり方に非常に重要であると感じた。あらゆる人におもてなしの心を持って交流していきたい」などの意見が聞かれた。



11/20(月) 場所：アオッサ 607 (福井市)

銘建工業株式会社 代表取締役社長、NPO 法人 21 世紀の真庭塾 代表 中島 浩一郎 氏

講座名：「木を使い切る」真庭の取組みについて

参加人数：40 名

●まず、岡山県真庭市で取り組んでいる木質バイオマス利活用の仕組みについて説明した。次に、新しい建築木材である CLT (クロス・ラミネイティド・ティンバー) 利用の海外先進事例や日本国内での事例について紹介し、「木」で事業を継続するには①新分野、②新商品、③輸出、④エネルギーの 4 項目のうち 2 項目以上関連していることが必要であると説明した。参加者からは「欧米での CLT 利用の進展に驚いた。木材需要の将来性に明るい希望が持てた」、「CLT で環境・健康・観光などの公民連携が可能であると思った」などの意見が聞かれた。

